



「さわやか」一年を振り返って!!

北九州市の監査終わる

四月十三日(火)北九州市庁舎九階にて、平成二十一年度障害者小規模共同作業所の会計監査が、午後一時三十分から、八幡事業所・小倉事業所の順番にて行われ、無事に監査を終了しました。
そこで、「さわやか」の二十一年度に行った、主な活動を振り返ってみました。 【編集部】

インフルエンザ感染対策

昨年は、新型インフルエンザが発生し、多くの感染者が出ました。「さわやか」でも早急に感染対策をとり、「さわやか」新聞等で感染に対する注意事項や、万が一感染した場合の対処方法など、厚生労働省や北九州市の対策を参考にしてボランティアさんや利用者さんにお知らせしました。

また、各透析病院にも感染患者が出た場合には連絡をしてもらうように協力をお願いしました。皆様のご協力のおかげで、「さわやか」の周りでは、感染の拡大はありませんでした。



日経新聞に載る

日本経済新聞の記者が、「さわやか」の現状や福祉有償運送について取材にいられました。実際に送迎の車に同乗し、患者さんの声を聞いていました

北九州市の障害福祉課や全腎協にも取材されており、その内容は昨年十月二十八日の夕刊に掲載されました。

NPO法人 北九州小規模連

月例会で「さわやか」の事業所紹介

五月十三日(木)十九時よりNPO法人北九州小規模連の月例会があり、「さわやか」より山田と梶原が出席しました。今回は、「さわやか」の事業所紹介が行われ、



その記事の反響が多くあり、「さわやか」や福祉有償運送についての理解がより深まりました。

全腎協通院介護支援 事業交流会について

今回、七回目の開催では、各地で行われている運営協議会のあり方が問題になっていました。また、ローカルルールには、法的根拠がなく合意できない場合には、はっきり言うべきである、と九州大学の島田準教授は言われていました。



東京大学の稗方助教は、オンデマンドバスシステムを紹介とサービスマン連携について話され、従来システムの解決するために更に研究開発をしていると述べられました。

意見交換会に参加

今年度は二回の意見交換会が開催されました。会を重ねるごとに色々な問題点が出てきますが、またそれに対する各事業所の意見も活発に出るようになりました。今後もこの意見交換会は継続し、現場の声を行政や国に発信していく一つの手段になると思います。

この意見交換会の最大の成果として、北九州市地域福祉振興基金から助成金(利用者一人当たり一回五十円)が出るようになりました。これは北九州市の画期的な福祉施策の一つではないでしょうか。

交通基本法検討が始まる

現在、国では交通基本法の制定に向けての検討が始まっています。障害者や高齢者をはじめ、全ての人が「移動の権利や」、交通施設及び移送サービスを利用する者の立場に立つて行わなければならない。(交通基本法)ということが望まれます。

障団連に加盟

昨年から加入した障団連の総会に初めて参加し、各障害者団体が団結して声を

上げていかなければいけないということを実感しました。また、北九州市に対する要望書や意見交換会など出席させていただき、改めて障害者に対する環境はまだまだ厳しいものがあることがわかりました。今後も共に声を上げていかなければならないと思います。

研修交流会について

昨年は「認知症」について研修会を行いました。最近よく聞く言葉なので、実際にはほとんど理解していませんでした。よくわかりました。また、その対応や接し方など実際の例を交えてお話いただき大変参考になりました。

参加者からも、「もう少し早くこういう話を聞きたかった」とか、「今、認知症の親を看ているが、その行動には一つ一つ意味があったことがわかり、今回参加して本当によかった」と言われていました。

バスハイクは、初めての試みとして、「ミステリーツアー」を行いました。行き先を告げずに目的地まで向かうのですが、大変盛り上がり、好評でした。



蛍が舞う季節がやってきました

夏の風物詩である「ホタル」について、勉強してみましよう

「ホタル」は、卵・幼虫・蛹（さなぎ）・成虫それぞれ異なった姿をもつ、いわゆる完全変態を行う昆虫で、カブト虫と同じ甲虫類に属します。

現在、世界中で「ホタル」の仲間は二〇〇〇種類いると言われています。日本で確認されているのは、その内の四六種類です。

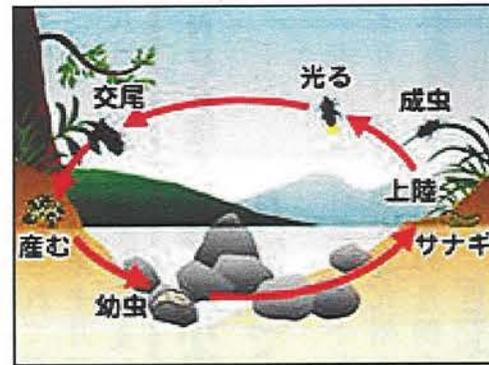
ほとんどのホタルは、陸で生活します。

また、よく光らないホタルが多い中で、「ゲンジボタル」と「ヘイケボタル」は幼虫期を水中で過ごし、卵、幼虫、サナギ、成虫期と、一生発光しつづけるめずらしいホタルです。

特に、「ゲンジボタル」は大きくて、南は鹿児島から北は青森の間にしかない、とてもめずらしい、日本だけにいるホタルです。

ホタルは、きれいな自然の中でしか生活できません。幼虫は、きれいな水中に住みます。

水の中では、いつも大小のカワニナ（幼虫のエサになる、まき貝）が、たくさん住ん



でいなければなりません。その川岸では、湿り気のあるやわらかな土の中で、幼虫がサナギになります。

ホタル観賞に適した時期と時間帯

ホタルが飛ぶ時期

ホタルの見られる時期は、暖かい地方ほど早く飛び始めるようです。川の水温なども関係して、地域によってもかなりの違いがあり、同じ地域でも場所によっても飛び時期が少しずつ異なります。また、その年の平均気温が高かった年には、平年よりも早く飛び始めます。夕方、西の空がだんだん暗

くなつて星の光が見え始める午後七時三〇分頃から、少しづつ光を出し始めます。ホタルが多く飛ぶ時間帯は午後七時三〇分〜九時頃です。その時間帯に合わせてホタルの観賞に出かけるとよいでしょう。

ホタルの飛び回っているものはほとんどがオスです。同時発光を繰り返しながら集団をつくって飛び交います。関西や九州地方では、発光間隔は約2秒です。



メスはオスに比べて数が少なく、なかなか見つかりません。草むらなどにじっとひそんでいますから、棒などを使って草むらを揺ら

ホタル鑑賞のマナー

★ホタルは暗い場所で、交尾のためのメスを探して光ります。強い光を嫌いますから、現地に着いたら車のライトを消しましょう。

★まだまだホタルの数は少ないので、ホタルを見つけたら、よく観察した後、放してやりましょう。

（インターネットより抜粋）

カビの発生する土では、成虫になれません。植物の茂みでは、ホタルが体を休めたり、水を飲んだりします。

そして、水ぎわのコケに卵を産みます。

ゲンジボタルの一生

I、卵

大きき0・5ミリ
六月ごろ川岸のコケに、メスが卵を産みます。一匹のメスが産む数は、五〇〇〜一〇〇〇個です。

II、幼虫

卵は一ヶ月で幼虫になり、すぐに水中に入って生活を始めます。三〜四月ごろ、六回目の脱皮をして2・5

センチの大きさになった幼虫は雨のふる夜、岸へあがり、やわらかい土の中に部屋をつくつてもぐります。

III、サナギ

土にもぐつて四〇日後、サナギになります。一〇日たつと、カラをやぶつて成虫が出てきます。

IV、成虫

土から出てきた成虫は光りながら、川岸をたび回ります。月明かりのない暗い夜、気温が高くて風のない、くもりの日によく見られます。夜、発光しながらオスとメスが活動し、その後、メスは卵をうみます。その後、一週間〜二週間で寿命が尽きます。

して刺激を与えると光を出しますから、見つけやすくありません。

ホタルが飛ぶ気象条件

風がなくて生暖かく感じる、月明かりもない暗い夜にはホタルが多く飛ぶのが見られます。風の強い日や冷え込む日には、夜になつても飛び回らず、草むらにかくれて光を出さずにじっとしているものが多いです。

また暗がりのある場所に集まる習性があります。雨が強く降るほど、飛ぶ数が減ります。ホタル観賞には、気象条件を確かめて出かけましょう。